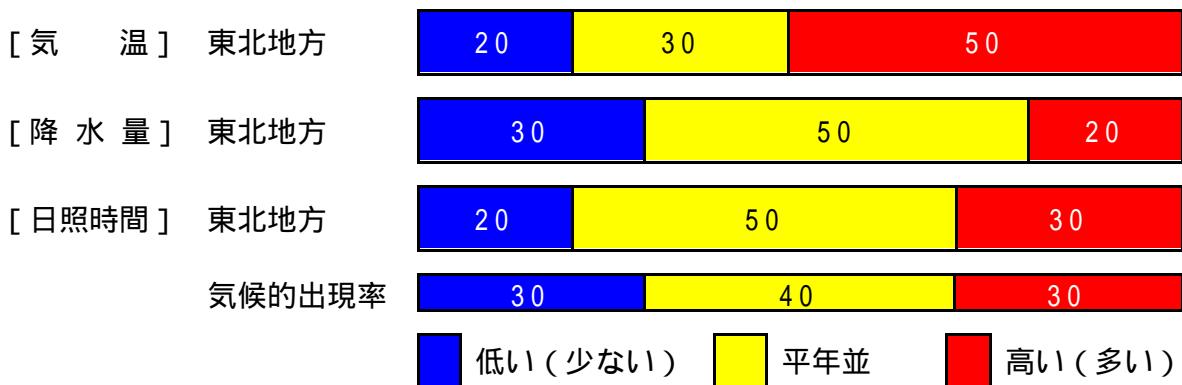


東北地方 1か月予報の解説(予報期間:7月22日~8月21日)

平成12年7月21日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方では「高い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「平年並」で、その確率は30%です。「低い」の可能性は20%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

この期間は、太平洋高気圧に覆われて平年同様晴れて気温の高い日が多いですが、低気圧や寒気の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数は、東北地方で約19日です。

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 東北北部は、期間の中頃まで前線や気圧の谷の影響で、曇りや雨の(7月22日~7月28日) 日が多いでしょう。その後は、おおむね晴れる見込みです。東北南部は、曇りや晴れの日が多いですが、大気の状態が不安定でにわか雨の所がある見込みです。

平均気温は高い見込みです。

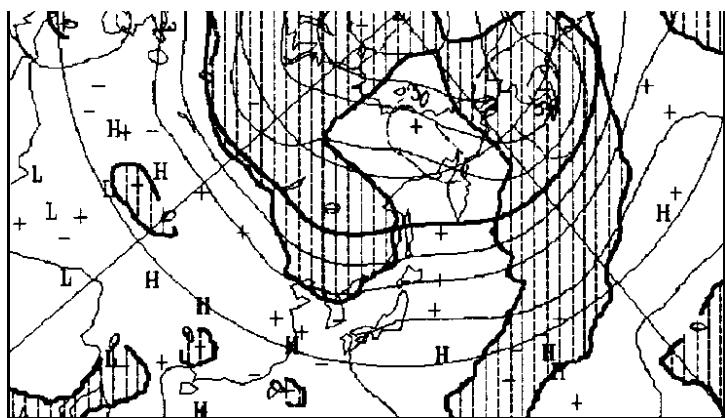
平年の晴れ日数は東北地方で約4日です。

2週目…………… 太平洋高気圧に覆われて平年同様晴れて気温の高い日が多いです。(7月29日~8月4日) 平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数は東北地方で約4日です。

3~4 週目……… 太平洋高気圧に覆われて平年同様晴れる日が多いですが、低気圧や
 (8月5日~8月18日) 寒気の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。
 平均気温は平年並の見込みです。
 平年の晴れ日数は東北地方で約8日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

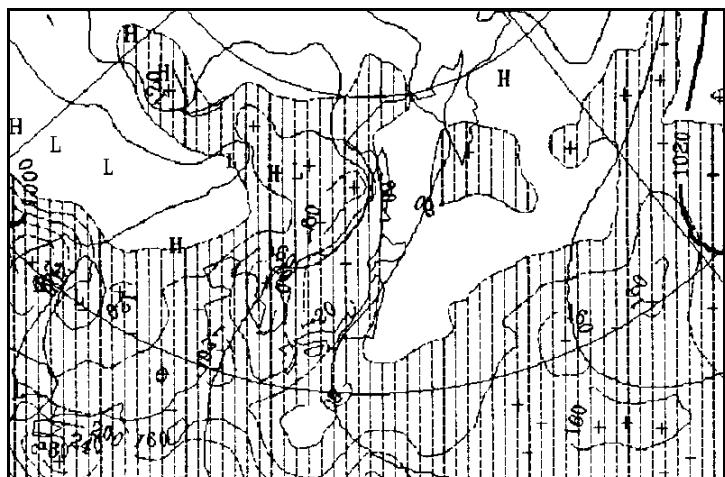


月平均の 500hPa 高度・偏差
 (等高度線: 60m 毎、偏差: 30m 毎、陰影部: 負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、日本付近は正偏差に覆われ、夏型の安定した晴天をもたらす亜熱帯高気圧が日本の南岸に張り出す。一方、中国東北区は谷場となって負偏差域が広がり、低気圧や寒気の影響を受ける時期がある見込み。

週別（図略）に見ても、日本付近は正偏差に覆われるが、亜熱帯高気圧の勢力が最も強いのは2週目となっている。3~4週目亜熱帯高気圧は西に張り出しが、北への張り出しが月平均程度で、低気圧や寒気の影響を受けやすくなる見込み。



月平均の地上気圧と降水量
 (等圧線: 4hPa 毎、降水量: 40mm 毎、陰影部: 80mm 以上)

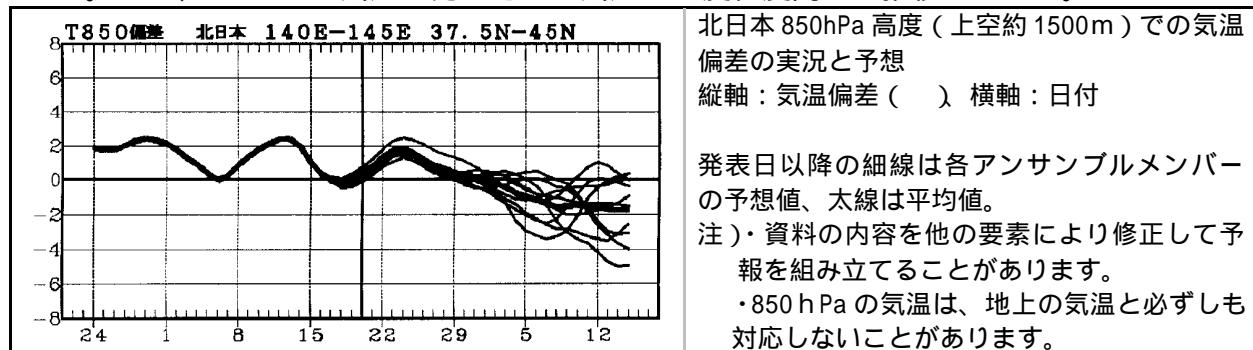
・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、太平洋高気圧は日本の南へ張り出し、沿海州付近は低圧部となっている。降水域は沿海州を中心に日本付近にまで広がるが、東北地方にまとまった降水域はかかっていない。

週別（図略）では、2週目に太平洋高気圧の勢力が最も強まり、東北地方に降水域はかかるない。ただし、他の週は太平洋高気圧が月平均程度の張り出しがなっており、太平洋高気圧の縁辺にあたって不安定な天気となる可能性はある。

3. 北日本 850hPa の気温平年差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温平年差は、アンサンブルメンバーの平均でみると 1 週目に高極となって、2 週目以降は平年を下回って推移する。2 週目以降はばらつきが大きくなり、信頼度は小さい。また、850hPa の気温に比べ地上の気温は 1 度程度高めに推移している。



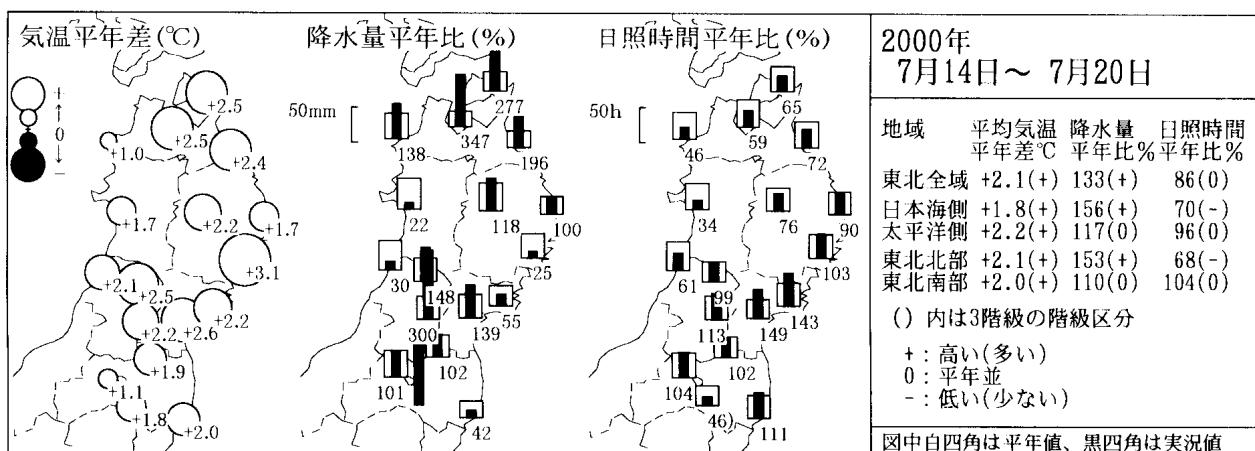
注: 1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します (この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます)。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近 1 週間 (7 月 14 日 ~ 7 月 20 日) の天候の経過

この期間、14 日は高気圧に覆われおおむね晴れたが、その他の日は梅雨前線が日本海まで北上し、17 日以降は東北北部に停滞することが多く、東北北部を中心に曇りや雨の日が多かった。また、上空に寒気を伴った気圧の谷の通過により大気の状態が不安定となって、各地で雷雨となった。

なお、東北南部は 21 日頃梅雨明けしたと見られる。

平均気温は、東北地方で平年差 +2.1 と平年より高かった。降水量は、東北北部で平年比 153% と平年より多く、東北南部で平年比 110% と平年並だった。日照時間は、東北北部で平年比 68% と平年より少なく、東北南部で平年比 104% と平年並だった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差 (比)

5. 梅雨明けについて

	今年の梅雨明け	平年の梅雨明け	昨年の梅雨明け
東北南部	7月 21 日頃	7月 23 日頃	7月 24 日頃
東北北部		7月 26 日頃	7月 26 日頃

但し、この梅雨明けの時期は暫定値であり、後日検証により確定したものが発表されます。